

第 170 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 7 月 21 日（木）13:30～14:30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

<議題事項>

- ◇ 沖縄県対処方針の変更及びイベント開催に係る取扱について議論した結果、変更を決定した。
- ◇ 沖縄県医療非常事態宣言の発出について議論した結果、発出することとした。

1 参加者

玉城 知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、溜 基地対策統括監、
宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、宮平 子ども生活福祉部長、
系数 保健医療部長、崎原 農林水産部長、松永 商工労働部長、
宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、
半嶺 教育庁、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、
県警 平良 警備第二課次席 宮里 感染対策統括監、
高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

欠席：池田 副知事

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。
 - ✓ 資料 3 の判断指標は全体的に上昇傾向にある。
 - ✓ 圏域別の状況は、宮古地区を除いて病床使用率が 70%を超えるような状況となっている。
 - ✓ 患者受入医療機関の就業制限（休業）状況は、7/20 で 939 名となっており、増加傾向。
 - ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会によると、沖縄県では過去最多の流行となってお

り、感染拡大の勢いは衰えていない。感染の拡大とともに、沖縄県の救急医療がひっ迫しており、とくに夜間の救急外来では、4時間以上の待ち時間が常態化している。コロナ以外の患者の治療も困難な状況となっており、救急外来の感染対策も維持することが難しくなっているといった報告がなされている。

- ✓ ワクチンの接種状況は、1回目、2回目は70%台。3回目は46.4%で、高齢者に限ると84.8%が接種している。また、4回目接種が開始され、60歳以上の11.1%が接種済み。
- ✓ 沖縄県広域ワクチン接種センターの接種実績等について、接種率を上げる取り組みとして那覇メインプレイスやイーアス沖縄豊崎などでの接種を対応したところ。

(5) 県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 7/20の県立病院の入院患者数は全体で150名、前週より70名、前々週より87名増加している。沖縄県の入院患者数661名のうち、22.7%に当たる。
- ✓ 入院患者数の内訳は、北部病院35名、中部病院48名、南部医療センター18名、宮古病院17名、八重山病院29名、精和病院3名となっている。
- ✓ 県立病院のクラスターは7/20時点で北部病院、中部病院、八重山病院で発生している。
- ✓ 診療制限については、救急について中部病院を除いた病院が通常通りとなっている。
- ✓ 北部病院では、コロナ重症度、介護度が増加しており、2病棟閉鎖して対応している。7/12に発生したクラスターの20日時点の累計感染者数は、計17人となっている。
- ✓ 中部病院では、7/4に発生したクラスターの20日時点の累計感染者数は、計23人となっている。7/20日時点のコロナ関連による職員の休業者が113人で

今後さらに増加することが予想され、これ以上病院の努力だけで医療提供体制を維持するのは難しい。本日 7/21 日から 8/31 まで一次救急外来を停止し、来週 25 日から 8 月 31 日まで一般外来診療も停止することとした。病院には多くのクレームや問い合わせがあり、これに対応するため病院事業局から職員を派遣する。

- ✓ 南部医療センターでは、3 連休中の救急室受診者はそれぞれ 180 人、253 人、232 人だった。受診者の 6 割が 15 歳以下で、発熱患者も 6 割であるがほとんどが軽症。7/17、7/18 日の 2 日間は医師会が検査センターを開設して 40~60 人の検査を行い救急室の負担が緩和された。休業者の増加で病棟縮小を行うため一般病床が不足しており他院を紹介することが増えている。今後 BCP 発動も想定している。
- ✓ 宮古病院では、コロナ病床稼働率は 7/20 日時点で 33%。救急患者数は例年と同程度である。先日、診療制限の記者会見を行ったが、電話問い合わせが多く対応を検討中。職員の休業者は 39 人。多良間診療所の医師が感染し医師派遣を行っている。
- ✓ 八重山病院では、7/11 に発生したクラスターの 20 日時点の累計感染者数は、計 9 人となっている。医師・看護師の休業者が 46 人と多く、1 病棟を閉鎖して職員をコロナ病棟へ応援に出しているが、それでもマンパワーはかなり不足している。病院事業局は今週から業務応援のため看護師 3 人を派遣した。
- ✓ 精和病院では通常通りの診療を行っている。
- ✓ 県立病院の休業者は、7/13 は 106 名だったが、昨日は 322 名と急激に増えており、過去最多となっている。
- ✓ 南部医療センターの発熱外来は救急の緩和に効果があり、中部地区にも同様に設置する必要があると考えられる。

(6) 宮古・八重山地域の感染状況について

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 宮古圏域では本日 300 名で過去最高。前週比 1.7 倍。週のトータルも 1,016 名で過去最高。増加の山は 6 週ほど続いてマイナスに転じる傾向があるので、あと 2 週程度は増えると考えられる。
 - ✓ 年齢別では 60 代での感染が増加しており、40 代～60 代で 38%を占めている。60 代以上でも 15～20%となっている。
 - ✓ 接種率の高い年齢層での感染増加が見られ、ワクチン効果の減弱と思われる。
 - ✓ 職業別では医療従事者が一番多くなっており、これまでとは違う傾向になってきている。
 - ✓ 陽性者の発生した施設は 31 件となっており、前週の 3 倍。ただし、一施設当たりの陽性者は 2.1 人となっており、こちらは大きく変化はない。ただし、施設によってクラスター認定されるほどの陽性者が出る施設と少ないところで二極化している。4 回目の接種を進めないと減っていかないと考えられる。
 - ✓ 保健所の体制として、来週月曜日から保健所の窓口対応を休止しコロナ対応に当たることとする。出先からは 6 名、市からも応援をいただいて対応しているところ。また、3 連休に県から 1 名応援をいただいた。
 - ✓ 患者へのファーストコンタクトが 2 日ほど遅れる状況になっている。
 - ✓ 保健所内でも職員 3 名が陽性、1 名が濃厚接触者となっており、これまでの状況と異なる事態が起きている。
 - ✓ 宮古地区医師会と話し合いの場を持ち、アンケートの結果から HER-SYS の入力について、自宅療養の患者への電話診療について、高齢者施設への支援拡張などについて調整した。
 - ✓ 観光客の陽性者が増えており、宿泊療養施設の 1/3 が観光客となっているため、住民が療養施設に入れれないといった事態もあり得る。

- ✓ 陽性の観光客が、通常のホテルにいるケースもあり、ホテルによって対応がまちまち。陽性でも宿泊できるホテル、できないホテル、予約の状況によって対応が変わるホテルも。また、客が宿泊施設療養を拒むケースもある。
 - ✓ アパートタイプのホテルなどを観光協会がリスト化し、観光客にリクルートするなどの対応が必要だと考えられる。
 - ✓ 観光客に対して、沖縄で陽性になるとどうなるか知ってもらう必要がある。クルーズ船はかなり厳しい対応をしているが、空港がやや弱い。
 - ✓ 観光業界も観光客を受け入れるのであれば、客へのメッセージや陽性になった際の対応を考え共有しておく必要がある。
 - ✓ 自宅療養者が増え、自宅療養チームで対応できない患者について、保健所に流れてくる状況もあるため、自宅療養グループの拡充を進める必要があると考える。
 - ✓ 発熱外来について、宮古だけでも数件の病院を拡充しているので、県側ももっとアピールしてよいと思う。
 - ✓ 住民とのリスクコミュニケーションが難しくなっていると感じる。まん延防止等重点措置などを出さなくても、CMなどでアピールする必要がある。
 - ✓ 発熱外来や救急について、小児の患者が増えており、内科だけでなく、小児科の発熱外来を増やしてもいいのではないかな。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
- ✓ 7/16～7/20 の合計は 1,857 名。先週一週間では 1,733 名
 - ✓ 連日 250～300 人の陽性者が発生している状況。
 - ✓ 年齢別にみると、30～40 代が最も多く、次いで 10 歳未満。60 歳以上も 18% と割合が増えている。
 - ✓ 離島での療養状況は、竹富島 178 名、与那国島 58 名。

- ✓ 最近は観光客の離島での感染が多く、離島からの搬送も増えている。6月に搬送を行った5件すべて観光客だった。民間の船をチャーターできないため、時間のかかる貨物船での搬送を行っている。
- ✓ 八重山の宿泊療養施設は7/21時点で46/55となっており、明日観光客が5名入ることとなっている。療養施設、病院に入れられない状態が続いており、ホテル業界は宿泊療養施設に入るまでの受け入れ協力をお願いしたい。
- ✓ 先月末から、県本部より保健師1～2名派遣、看護職を2名派遣してもらっている。出先機関からは4名動員をお願いしている。
- ✓ 7/7より、ファーストコンタクト重点化として、高齢者、透析患者、妊婦、職業としては医療従事者に絞って架電をしている。その他はSNSを活用しての対応をお願いしている。
- ✓ 7/19から、解除日の通知について、発症日も記載してショートメッセージでの対応をしている。
- ✓ 保健所の窓口対応を7/8～7/22まで休止しているところ、8/5まで休止とすることとした。
- ✓ 連絡が取れない1,000名について、いかにSNS等を活用して連絡をとるかなど日々対応しているところ。

(7) 空港PCR検査プロジェクト・TACO・RICCAの運用状況等について【資料8】

- 文化観光スポーツ部から、空港PCR検査プロジェクト・TACO・RICCAの状況について報告。
- ✓ 空港PCR検査プロジェクトについて、7/11の週の実検者は3,242名で、前週比+970名。一日あたり450名程度だが、まだ検査の対応は可能。内訳は、県内在住者2,850名、県外在住者392名、陽性者は231名で、陽性率は7.1%と前週の倍近くとなっている。

- ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は460名で、対前週比+167名。うち県内在住者350名、県外在住者110名、抗原検査陽性は6名であった。
- ✓ TACOについて、7/11の週の電話対応件数は82件で、うち健康相談・問診実施数は43件となっている。
- ✓ RICCAについて、7/15時点の登録者数は前週より+485人、登録施設等は前週より+52件。

(8) 第16回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議について【資料9】

➤ 総括情報部より報告

- ✓ 会議内での意見として、「感染対策の徹底のため理念の共有が必要。県民、各界で同じ理念で取り組んで、皆で行動変容すべき。不要不急の外出を避ける等感染対策の原点回帰が必要」といった意見や、「県民のみならず、観光客や帰省者に十分な医療が提供できない緊急事態であることを伝えるべき」、「県民には平時とウィズコロナの違いを伝えるべき。ウィズコロナにおいては、平時と同様の医療が受けられないリスクを伝えた上で個人の行動を考える必要がある」といった意見があった。

(9) 第22回新型コロナウイルス感染症の影響に係る経済対策関係団体会議について

【資料10】

➤ 商工労働部より報告

- ✓ 会議内での意見、要望は次の11つとおり。
- ✓ ① 社会経済活動の制限を回避し、更なる制限を行わないこと
- ✓ ② 時短要請したとしても協力しない飲食店も多くなるので、慎重な判断を求めること
- ✓ ③ イベントの感染対策でアルコール禁止等を求めないこと
- ✓ ④ 4人以下2時間以内の制限は根拠が乏しいため、飲食店や家庭でも換気を

しっかりする等の周知を行うこと

- ✓ ⑤ 感染対策の強化を県民に十分に伝わるようにして、感染源の対策を十分とれるようにすること
- ✓ ⑥ 逼迫している医療への人員支援や対策を講じること
- ✓ ⑦ 保健所からの患者あて連絡の改善、保健所との陽性者データの共有
- ✓ ⑧ 高齢者や出向き接種等のワクチン接種率向上のための取組強化
- ✓ ⑨ 空港 PCR 検査について予約無しの弾力的な対応の検討
- ✓ ⑩ 経済の早期回復、復興支援に努めること
- ✓ ⑪ 観光業界への支援や、全国旅行支援の早期再開

(10) 質疑応答

- ✓ 経済界からの意見で、4人以下2時間以内の制限の根拠が乏しいとの意見があるが、いろいろなデータがあり根拠に乏しいわけではない。この意見について何かしら反論を行ったのか。
→国の基本的対処方針について、感染拡大の傾向が見られる場合には4人以下2時間以内の要請が行えることを説明し、先方にも納得していただいた。
→結論のところでは制限の根拠が乏しいとあったので、経済界の重鎮が全く理解していないのかという懸念があった。説明したうえで理解されているのであれば了解。

3 議題事項

(1) 沖縄県対処方針の変更およびイベント開催に係る取扱について。

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 7/22 から 8/14 までの期間を、急激な感染拡大を抑え込み、県民の生活と命を守るための緊急対策期間とする。

- ✓ 現況に、急激な感染拡大と医療の厳しい状況を記載したうえで、「あなたの大切な人やあなた自身を守ることが医療を守ることにつながります。全ての県民・事業者の皆様のご協力をお願いします。」の文言を記載する。
- ✓ 2ページ目には、県民の皆様へのお願いとして、日頃の感染対策、会食、体調不良時の対応、ワクチン接種について記載している。
- ✓ 3ページ目には、前述の項目について細かく記載している。
- ✓ 「日頃から」の項目で、不要不急の外出はできるだけ控えてくださいと記載する。
- ✓ 「会食や友人との交流の際は」の項目で、会食は4人以下、2時間以内で行うこととする。
- ✓ 「体調不良のときは」の項目で、体調不良でコロナが疑われる場合、軽症であれば医療用の抗原検査キットを活用するか、県のコールセンターに相談してください。救急医療を守るため、軽症の場合や検査目的での救急病院の受診は控えください。などと記載する。
- ✓ 4ページ目、「来訪者（沖縄への来訪を検討している）の皆様へ」について、沖縄県内の医療機関はひっ迫し、受診が困難となっているため、持病のある方は、無理をせず体調管理に気を付けましょう。ご自身が日頃処方されている薬を把握し、来県する際には、持病の薬を多めに持参してください。と追記する。
- ✓ 5ページ目、「飲食店等の皆様へ」の項目について、対象者全員検査を行った場合の記載を削除し、「全ての飲食店等について、同一グループ、同一テーブル4人以内とすること（介護・介助が必要な場合を除く）」、「利用時間を2時間以内とするよう呼びかけ（感染防止対策認証店をご利用ください）」とする。
- ✓ 6ページ目、「イベントの開催について」、感染状況が悪化していることに鑑み、1,000人以上が参加するイベントについては、感染防止安全計画の作成及び県への届出を求めますので、ご理解とご協力をお願いしますと記載している。

- ✓ 参加者が1,000人以上のイベントについては、主催者がイベント開催の2週間前までを目途に具体的な対策内容を記載した「感染防止安全計画」を作成し、県へ提出すること。開催が2週間以内に迫っているイベントについても、提出を求めているところ。多くの人が集まるイベントについては、来場者に対し、ワクチン接種を最新の状態にするか又は事前のPCR等検査での陰性確認を勧奨すること。アルコールの提供を伴うイベントについては、開催時期の延期を検討することを盛り込んでいる。
- ✓ 7ページ目、換気扇の常時稼働や窓開けの追加など、エアロゾル感染に対応した対策について記載する。
- ✓ 8ページ目、「学校へのお願い」について、適正なマスク着用について記載する、気温・湿度や暑さ指数が高い夏場においては熱中症対策を実施する。屋外では、周囲に人がいなければマスクを外すことを周知する、夏休み中は、友人の家に集まらないことを盛り込む。
- ✓ 「医療緊急事態版 コロナかな?と思ったら」を最後に掲載する。
- ✓ 議題資料2については、イベントに関することのみ取り出し説明しており、アルコール提供を伴うイベントについては、延期を検討するよう記載を変更する。

(2) 質疑応答

- ✓ ワクチン接種についての喚起、市町村の接種状況の報告が欲しいとの専門家からの意見があったが、どういった状況か。また、市町村への呼びかけについて、対処方針へ記載する必要はないのか。
→お手元の資料にはないが、4回目接種を8月までに80%、7月までに60%と目標を立てており、市町村に向けて通知し促進しているところ。ワクチン接種のモニタリングについては、VRSというシステム上で各市町村の接種状況が確認できるので、この情報を市町村へ還元し、現状を伝える。県の対策として

は、県対策本部会議で資料として毎週1回接種状況について報告しているので、これをもって接種状況をモニタリングしていこうと考えている。また、対処方針の中で市町村に向けたメッセージとして、ワクチン接種を図るよう記載する。

- ✓ 来訪者に向けた項目の文言について、沖縄県内の各空港でPCR検査が受けられる体制があることが記載されているが、来県前に事前にPCR検査で陰線を確認してもらうよう強くアピールして欲しい。来県後に空港で陽性が確認され療養になるケースや、検査は受けてきたが結果を確認せずに来県されるケースが結構ある。

→そのような懸念はあるため、やむを得ず来県前に検査が受けられない方に向けた検査会場である旨記載する形で対応したい。

(3) 沖縄県医療非常事態宣言の発出について

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 入院患者が日々増加し、本日500人に達する予定。現在通常で最大の医療フェーズ5で回しているところだが緊急フェーズに上げることも視野に入っており、各医療機関の努力で拡張していただいているところだが、県が沖縄県医療非常事態宣言を出し、医療機関へお願いしていくことが必要と考えており、発出を検討している。黄色の箇所は現況の入院調整が困難なこと、医療ひっ迫の現状について記載しており、下線が引かれている箇所はあなたの大切な人やあなた自身を守る行動が、医療を守ることにつながること、全ての県民・事業者にも協力をお願いする内容となっている。黒色の箇所は、県民に向けた3つのお願いとして、症状がある時は外出せず、7日間は高齢者等重症化リスクの高い方との接触を控えること、軽症の場合や検査目的での救急受診を控えること、感染対策の見直し、屋内でのマスク着用、密集の回避、換気について記載している。

(4) 質疑応答

- ✓ 発出することはよいと思う。県民に対してどのように周知していくのか。ホームページ上に掲載するだけではなく、最初の1週間から2週間の間はラジオやテレビのCMやテロップなどで広報できたらよいと思うが。
→本日知事コメントで、マスコミにも大きく取り扱いがなされると思われる。テレビは時間がかかるということで、ラジオ県民室では来週以降放送できると確認できている。SNSなどを利用しスピード感をもって広報を行う。
- ✓ 一番下の枠に、県民の皆様や医療従事者の方々へのねぎらいの言葉を追加していただきたい。
→応援するようなメッセージを記載したい。

閉 会